

# 関東大震災と横浜

## ——80年前の出来事——

地震大国日本では、地震から逃れられない運命にあります。近年、東海地方に大地震の発生が予測され、さまざまな方面で防災対策に取り組んでいます。横浜市は、ちょうど80年前に起こった関東大地震では被災地のうち最も大きな被害を受けました。当時の資料により、地震の恐ろしさを知り、先人の労苦を偲ぶとともに、過誤から学び、防災の意識を高め、再来に備えたいものです。

(文中、敬称略)

### ある時、突然!!

大正12(1923)年9月1日午前11時58分過ぎ、突然、大地震が発生しました。マグニチュード7.9、震源地は最近の調査では松田付近と三浦半島とされ、関東地方南部の広い範囲に及びました。この時、人々はさまざまに過ごしていました。しかし、数分間のうちに生死を分け、運命を変えてしまったのです。

まず子どもたちの様子です。

この日は学校の2学期の始業式で、児童・生徒たちの多くは早く帰宅し、友達と遊んでいた人、近所へおつかいに出ていた者、昼食を食べていて、2杯目のかわりを出そうとした時、という人もいました。

当時の小学生の手記を集めた『震災に関する児童の感想』の中から1つを紹介します。

#### 大ヂシン

一学年 男

ボクワ ミヤガハチャウニ アソンデイタラ ズシンガ グラグラユリダシマシタ。ソレカラ イセザキチヨウヘイツテ キラクセンベイノ ヨコオトウツテ ツルノハシト コンソウバシトノマン中ヘ ニゲマシタ。スルト カチガ ダンダンハジマツテキマシタ。ソレテ ダンダンアツクナツテキマシタ。ソレカラ フネエニゲマシタ ソレデ カハヘトビコミマシタ スルト ブクブクオシマシタ。チットタツト ユウガタニナリマシタ。ソレカラ ダンダンクラクナツテキマシタ ソレカラ フネノイタオヒヒテソノ上エネマシタ。ソレカラズーツタツテ ヨガアケマシタ ソレカラ ヨガアケマシタ スルト ニンゲンノキモノガ ナガレテキマシタ ソレヲアシヘマイテ スイドヤマヘイキマシタ。オカアサントイツシャウニナリマシタ。ソレカラ ヒガシカナガハヘ ユキマシタ スルト ニギリメシヲ ミツモライマシタ ソレヲタベマシタ。

このころの小学校1年生は、まずカタカナを習いました。この子は野毛近くから伊勢佐木町を横切って山手へ向かい、船から川に飛び込んでいます。

次は2年生の女子の作文(『大震遭難記』から)ですが、**大きいこうえん**は横浜公園でしょう。ここでの様子が分かる貴重な証言になっています。

#### 九月一日の大ぢしん

寿小学校 二学年 女

九月一日のぢしんのときは、うちぢゆうでごはんをたべて居ました。そして、おかあさんが、ぢしんだとおつしやいましたから、みんなでろうかへ出ましたら、家が、つぶれはじめました。それからみんなでつぶされました。それでおみせの人はみんなそとへ出ましたから、すぐにだしてもらいました。それから、ちいさいこうえんににげましたが、あつくて居られませんか、大きいこうえんへ、にげました。それから、大きいこうえんへ、いつて見たら、いつばい水が、出て居ましたから、水の出て居る方へ行つて居たら、だんだんあつくなりましたから方ぼうえにげました。

それから、とちゆふで、おとうさんと、おかあさんとわかれしましたから私がしんばいして、すこし、しずかになつてからさがしてもらいました。それから、あの日のよるの一じごろになつて、いなかへかへりました。

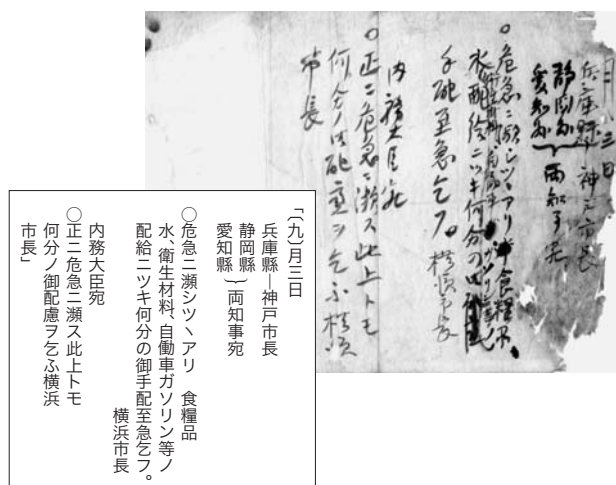
横浜にいた外国人の場合はどうだったのでしょうか。クライストチャーチの牧師ストロングは、知人とユナイテッドクラブに行きました。入口に来て、石段を登ろうとしたが、なぜか気が変わり、今日は止めようと帰りかけた時、大地震が起こったのです。クラブ内にいた人はすべて死にました。また、ジャパン・ガゼット紙の社長マーチンは、現在のフランス山にあったフランス領事館で話し合っていた時、風が強いので領事が扉を閉めますかと言ったのですが、窓を閉めてはと

マーチンは言いました。このすぐ後、大地震となったので、扉を閉めていたら逃げ出せなかったでしょう。領事は逃げ遅れて倒壊物の下敷きになり、引き出されましたが、その後亡くなっています。

## まず救援を

余震の続く中、建物は紅蓮の炎に包まれ、逃げ惑う人々。なんとか生き延びたが、すべてを失って食べる物すらない。公務に携わる者は、外からの救援を頼むほかありませんでした。しかし新聞発行不能で通信機能も失われているのです。何とか状況を外につたえなければなりません。神奈川県警察部長の森岡二郎（後に野球殿堂入り）は、海を泳いで横浜港内に碇泊中の東洋汽船これや丸（11,810トン）にたどりつき、同船の通信が使えるのを知って各方面に発信しました。銚子無線局が1日午後7時受信、ここから大阪方面へ発信、銚子局から受信した福島県の磐城無線局は午後11時、ハワイのホノルル局を経てサンフランシスコに通報しました。これが世界に広がった日本大地震の第一報です。電文は「本日正午横浜において大地震に次いで火災起こり全市ほとんど猛火の中にあり、死傷算なくすべての交通通信機関途絶した」というものでした。その後、これや丸は行政の中枢となり、連日、送受信が繰り返され、救援・復旧に大きな役割を果たしました。

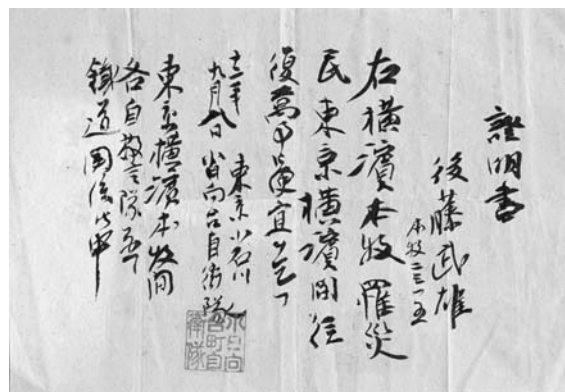
地震発生当時、横浜市長の渡辺勝三郎は平塚に避暑に行っていましたが、2日の夜から徒歩で横浜に向かい、仮の市役所が置かれた桜木町の職業紹介所に入ったのが3日午前10時ごろでした。直ちに幹部と協議し、援助依頼を各方面に出すことになりました。3日付の援助依頼のメモ（当館所蔵）は次のもので、非常な事態の様子が胸に迫ってきます。



## 治安の回復へ

震災後、略奪が発生し、流言などで危険な状態になったため、自警団が各地につくられるようになりました。

このころ、外出した人が不審者に見られて暴行され、時には死に至る事件が起きたので、防止策として証明書を発行しました。写真（下）は、東京小石川の小日向自衛隊が、東京ー横浜本牧間の各自警隊と鉄道関係あてに出した証明書で、横浜本牧の罹災民が東京横浜間を往復するので便宜をはかって通行させてほしいというものです。しかし自警団や警察力では間に合わず、軍隊の出動が要請されました。



関東戒厳神奈川警備隊司令部員は9月3日に組織され、歩兵大隊とともに東京芝浦から特務艦膠州に乗船、4日午前7時に中区の谷戸橋近くに上陸、桜木町の県立海外渡航者身体検査所跡に司令部を置きました。しかし治安維持令・支払延期令・暴利取締令が同時に発令された7日には司令部を神奈川の青木町台町の松下邸に移し、法務部・経理部・憲兵隊を青木町桐畑の佐伯邸に置きました。また名称も関東戒厳神奈川方面警備隊司令部と改めました。この司令部が第四旅団として東京に帰還したのは10月30日でした。

## 市内の被害状況

未曾有の大被害でした。早い段階の9月9日の調査では、世帯数は震災前の約74.3%に減り、住家数のうち約59.5%が焼失、約19.4%が倒壊、残ったのはたった21.1%という惨状です。9月19日調の人口は、日本人が約29.1%減少したのに比べ、外国人は約95.6%と、ほとんど居なくなってしまいました。同じ19日の警察部調査ですが、死者が2万3,440人、行方不明者が3,183人、同日の県総務部調査では、海と陸路での避難者の数は11万2,357人で、残存人口は30万9,560人でした。

面積で被害をみますと、10月8日調では、約58%が家屋焼失区域、約22%が家屋倒壊区域となり、合わせて約80%が大きな被害を受けています。橋は市内に206か所ありましたが、約36%の74か所が被害を受け、護岸では総延長の約40%が崩壊、がけ崩れが約50か所起きました。公の機関は43のうち、焼失33、半壊10。外国領事館は26ありましたが、全て焼失という有様でした。このため、横浜は復興できないのではないかと言われたそうです。

## 小学校の被害

横浜市立の小学校の被害ですが、当時の市域内の全36校を表にしてみます。

| 被害状況         | 校数 | 学 校 名                                                            |
|--------------|----|------------------------------------------------------------------|
| 全 焼          | 17 | 横浜、本町、老松、戸部、西戸部、西前、岡野、浦島、吉田、南吉田第一、南吉田第二、南吉田第三、日枝第一、日枝第二、元街、北方、平楽 |
| 全 壊          | 3  | 西平沼、本牧、磯子                                                        |
| 大 破          | 4  | 江吾田、二谷、子安、石川                                                     |
| 大部倒壊         | 3  | 南太田、大鳥、神奈川                                                       |
| 一部大破<br>一部焼失 | 1  | 大岡                                                               |
| 一部倒壊<br>一部焼失 | 1  | 寿                                                                |
| 一部大破<br>一部倒壊 | 5  | 宮谷、立野、根岸、太田、一本松                                                  |
| 一部大破<br>破 損  | 2  | 青木、稲荷台                                                           |

これによれば、47.2%に当たる17校が全焼し、全壊と大破とを合わせれば24校となり、66.7%を占めることになります。結局、全焼から破損まで差はありますが、全校が被害を受けたことになります。

また、教員と生徒を見ますと、次の表になります。

(単位：人)

|     | 災 前<br>(8月末) | 災 後<br>(12/1) | 差       | 死亡者 |
|-----|--------------|---------------|---------|-----|
| 教 員 | 997          | 941           | -56     | 15  |
| 生 徒 | 54,962       | 37,515        | -17,447 | 903 |

死亡者は、職員では吉田小学校の3人が最も多く、生徒で多かった順に並べると、次のようになります。

(単位：人)

| 人数  | 小 学 校 名  | 人数 | 小 学 校 名 |
|-----|----------|----|---------|
| 145 | 元街       | 50 | 南吉田第二   |
| 137 | 吉田       | 40 | 老松      |
| 89  | 横浜       | 38 | 寿       |
| 84  | 本町・南吉田第一 | 25 | 日枝第一    |

(以下略)

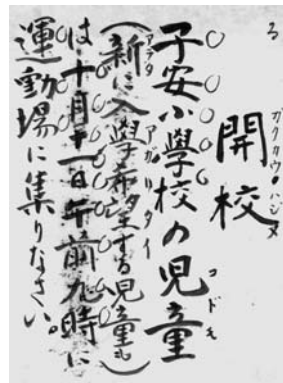
## 天幕（テント）学校始まる

小学校で使用に耐える程度に残った教室の数は、全市でわずか39教室にすぎず、災前には特別教室も足して776教室ありましたので、残ったのが5%という状態では、授業再開は難しいものがありました。

まず破損校舎を応急修繕し、雨天体操場に間仕切りなどをして144教室つくりだそうとしたのですが、市では他の建築もあって思うように進ましくありませんでした。野外でやむなく授業をしたこともあります。雨天の時に困りました。

そこで天幕を張って一時の教室にすることとし、東京での例を参考に、555張を臨時震災救護事務局から融

通してもらいました。全焼した吉田に37張、横浜に36張、西前と岡野にそれぞれ39張など、12月8日までに442張が各学校に配られ、そのうち校舎がなく天幕のみの学校は10校で、これで数か月しのいだのです。授業が再開されたのは10月11日でした。写真は子安小学校の開校を知らせたビラです。



教室の次は教科書と学用品です。これは全国各地から、市または直接学校に寄贈されました。教科書は国定教科書で全国同じだったため都合がよかったのですが、実に細々した物まで届けられました。消ゴム、クレヨン、硯、墨汁、インキ、机、腰掛、傘、虫眼鏡、裁縫用具などもありました。その数量は261万7,119点に達しています。

## 生徒たちが思ったこと

教育界では震災が生徒の精神にどのように影響したのかを心配しました。これについて関係者から多数の意見を集めますと、時代の反映もあって、次のようになりました。

| 悪い方面      | 善い方面       |
|-----------|------------|
| 1 社会秩序の破壊 | 1 犠牲的精神    |
| 2 公德心の廃滅  | 2 皇恩国恩の感銘  |
| 3 風俗の頹廢   | 3 宗教心の発露   |
| 4 協同互助の減失 | 4 人間愛の体現   |
| 5 衛生軽視の風  | 5 和衷協同の精神  |
| 6 人情美の減失  | 6 質素勤儉の風興る |
| 7 依頼心の増長  | 7 文化の恵沢    |
| 義務心の減失    |            |

児童の精神上に及ぼした影響ですが、1年余の後のアンケートでも如実に出ています。

| ○一番嬉しかったこと (100人に対し) | (人)   |
|----------------------|-------|
| 1 初めて飲食物を貰ったこと       | 30.00 |
| 2 配給品慰問袋を貰ったこと       | 30.00 |
| 3 家族の者が無事であったこと      | 7.62  |
| 4 自分が無事であったこと        | 6.66  |
| 5 軍隊が来たこと            | 6.18  |

|                    |             |
|--------------------|-------------|
| ○一番悲しかったこと         |             |
| 1 家が潰れて焼けたこと       | 19. 52      |
| 2 家族の者が死亡したこと      | 16. 66      |
| 3 親類の者が焼け出されたこと    | 9. 05       |
| 4 家族の者の行方不明        | 8. 09       |
| 5 食物や着物がなくて        | 6. 19       |
| ○どんなことをした人をえらいと思うか |             |
| 1 人の命を助けた人         | 39. 52      |
| 2 困る人を助けた人         | 16. 19      |
| 3 色々なものを人に与えた人     | 13. 81      |
| 4 兵隊さんの活動がえらい      | 11. 90      |
| 5 人の為に命を失ったもの      | 3. 81       |
| ○現在一番困るものは何か       |             |
| 1 校舎がなくて           | 27. 14      |
| 2 着物がなくて           | 22. 38      |
| 3 飲食物がなくて          | 10. 00      |
| 4 住家がなくて           | 7. 14       |
| 5 水道ガスがなくて         | 7. 14       |
| ○地震からどんな考えになったか    |             |
| 1 勤勉にしたい           | 21. 42      |
| 2 贅沢をしない           | 16. 19      |
| 3 横浜を復興したい         | 8. 57       |
| 4 お互いに助け合おう        | 7. 62       |
| 5 自分が働かねばならない      | 5. 24       |
|                    | (『震災と教育』から) |

## 市民生活の復旧

何よりも必要とされた食物の配給は3日から始まり、まず緊急に、横浜港内に碇泊していた大阪商船のバリー丸(7,197トン)に積み込んでいた外米800余トンが災者に配給されました。京浜間の鉄道は工兵によって5日に開通しましたが、貨車で遭難者が輸送される状態でした。8日には橋の修理が始まり、電灯は神奈川方面の公的機関に最初点けられ、残りの神奈川方面には11日から点火されました。郵便は6日から、焼失区域は12日から開始、13日に水道が通水し、久保町・藤棚方面に給水されました。神奈川・馬車道間の市電が開通したのは10月2日、屋根なしのバラック電車が十数輦で運転を開始したのは10月15日で、同月29日に東京との公衆電話が開通し、しだいに市民生活が元に戻ってきました。

## 震災記念館建設される

大地震から19日目の20日、横浜市教育課長の中川直亮は、小学校で最も悲惨だった吉田小学校の焼け跡を視察中、近くの寺の焼けただれた鐘を見て、震災の「証拠」を後世に残し、悲惨さを伝えることを思い立

ちました。直ちに市内小学校や各方面に収集を依頼し、係員や陳列委員を選任、翌年の震災記念日に横浜小学校運動場に建設した記念館を開館することができました。しかし小学校移転問題が起こり、瓦斯局跡の本町小学校予定地内に開館したのは大正14年3月でした。その後、野毛山にできる図書館(中央図書館の前身)の別館として建設されることになり、開館式が挙行されたのは昭和3年8月1日です。震災を展示する独立施設としては全国でも先駆的なものでした。開館から4か月間で入場者数9万7,699人、翌年には17万2,157人で、1日平均504人を数えました。

そして、時代は移り、戦時色が濃くなって、昭和17年ごろ、記念物が金属回収令により失われ、9月1日には改装されて市民博物館として開館しますが、この時、約18年間続いた震災記念館としての機能が失われました。その後、昭和20年5月の空襲でさいわい焼け残った建物には空襲などで疎開してきた行政機関の入室が続き、戦後も引き続き各機関が入居していましたが、昭和39年7月、結婚式場の老松会館に生まれ変わります。これは平成3年まで続きましたが、敷地が中央図書館の一部になるため解体され、建物の歴史は60余年で閉じられました。

こうして震災記念館はなくなりました。高齢の方で、今でも震災記念館の思い出を語る人がいます。なお、書籍など資料の一部を引き継いだ当館には、震災関係資料を多数所蔵しています。ご利用ください。

(H.K.)

(参考文献)

- 『横浜市震災誌』(未定稿) 1-5冊 横浜市役所市史編纂係 1926-1927年
  - 「有鄰」第429号(2003.8.10) 有隣堂
  - 『震災に関する児童の感想』 尋一男 校名不明
  - 『大震遭難記』 尋二 女 横浜市立寿小学校 [1923年]
  - 『横浜山手』 鳥居民 草思社 1977年
  - 『横浜の本と文化』 横浜市中央図書館 1994年
  - 『叙情日本大震災史』 田中貢太郎・高山辰三 教文社 1924年(有明書房 1993年 復刻)
  - 『神奈川縣下の大震災火災と警察』 西坂勝人 警友社 1926年
  - 『横濱復興誌』 第1編 横浜市役所 1932年
  - 『郵政百年史』 郵政省 通信協会 1971年
  - 『横浜市史』 第5巻下 横浜市 1976年
  - [神奈川方面警備部隊法務部日誌] 1923.9.3-10.30
  - 『震災記念館陳列品説明書』 横浜市震災記念館 [刊年不明]
  - 『震災と教育』 横浜市教育研究会 横浜市役所 1925年
  - 『横浜市教育施設復興の回顧』 [横浜市役所] 1929年
  - 『横浜に震災記念館があった』 横浜郷土研究会 1995年
- (※3、4ともに読みやすくするため、原文の字間を開けました。)

# 関東大震災・災害対策関係資料紹介

地震は避けられないものです。しかし、日ごろの備えと、それが起こった時に人々がいかに行動するかによって、被害は拡大することもあるれば、最小限に食い止めることも出来ます。ここでは震災の教訓を考える上で役立つ図書館資料を紹介します。

横浜国立図書館全蔵書に対し「関東大震災」のキーワードで検索すると、約300件の資料が出ます。

まず、当時の歴史的資料の中で復刻されたものを挙げます。

『実写・実録関東大震災』講談社 1988 一原本は『大正大地震大火災』1923

『関東大震災誌』全3巻 千秋社 1987一原本は『大正震災誌』内務省社会局 1926

『大正12年9月1日大震災写真帖』神奈川新聞社出版局 1983一原本は神奈川県 1923

次の2冊は、当時の資料を収集し、まとめたものです。

『現代史資料6』みすず書房 1963

『関東大震災政府陸海軍関係資料』全3巻 日本経済評論社 1997

地方紙を含めた記事のクリッピングとしては、

『新聞集成大正編年史 大正12年度版下 関東大震災期』明治大正昭和新聞研究会 1985

があります。この資料により、中央紙への報道禁止措置と地方紙への流言の拡大の様子を確認でき、正確・迅速かつ市民に開かれた情報提供の大切さが分かります。

一方、地震学・都市工学的観点からまとめられた資料は乏しいのですが、土木施設の被害状況をまとめたものとして、

『大正十二年関東大地震震害調査報告』全5巻 土木学会 雄松堂出版 1984一原本は、土木学会 全3巻 1926 (復刻版は、原本の3巻から地図を別冊として、附図上下巻として発行)

が、あります。

また、関連著作としては、

『関東大震災』吉村昭 文藝春秋 1973、文春文庫版 1977  
これは、多くの一次資料を踏まえ当時の諸々の社会現象を詳しく再現しています。

このほか、

『関東大震災』姜徳相 中央公論社 1975 (改題新版『関東大震災・虐殺の記憶』青丘文化社 2003)

『大都市が震えた日』永沢道雄 朝日ソノラマ 2000

『図説 関東大震災』太平洋戦争研究会 河出書房新社 2003

『関東大震災時の朝鮮人虐殺』山田昭次 創史社 2003

なお、地震学の専門家の著作としては、

『関東大震災』武村雅之 鹿島出版会 2003  
があります。

## 〈防災から減災へ〉

### 1 危機管理は正しい知識から

『地震列島日本の謎を探る』日本地質学会編 東京書籍 2000

『地震の事典』宇津徳治〔ほか〕朝倉書店 2001

また、日本地震学会のホームページでは、「地震に関するFAQ集」で地震の基礎知識を易しく解説しています。

<http://www.soc.nii.ac.jp/ssj/FAQ/FAQindex.htm>

そして、関東大震災の教訓の一つが情報の大切さです。

『災害と情報』東京大学新聞研究所編 東京大学出版会 1986  
情報網が発達した現代でも、災害時に流言が流布する状況が見られます。情報に対する判断力を養いたいものです。

### 2 地震を恐れず、侮らず〜日ごろの備えが大切です

『東海地震がわかる本』名古屋大学災害対策室 東京新聞出版局 2003

『地震学者の個人的な地震対策』神沼克伊 三五館 1999  
次の資料は、416年以降の地震記録です。

『日本被害地震総覧』宇佐見龍夫 東京大学出版会 2003 等  
断層は周期的に地震を起こすことから、過去を知ることは将来の備えにつながります。

横浜市の防災対策としては、次の資料があります。

『横浜市防災計画 震災対策編』横浜市防災会議 1999

『震災時避難場所[全区]平成7年3月31日現在』横浜市  
昼間は職場や学校とばらばらに過ごす家族です。家庭内で確認しておきたいものです。横浜市ではほかにも、区ごとに『防災マップ』『防災計画』を作成しています。

また、災害情報伝言ダイヤル「171」(事前登録不要)も覚えておくと便利です。テープ案内は0180-993524、ホームページは<http://www.ntt-east.co.jp/voiceml/>へ。

### 3 「一番に人命救助できるのは住民自身」

阪神・淡路大震災は、防災対策だけでなく、日ごろの地域社会のあり方や防災訓練の内容を見直す契機となりました。

『地震防災の事典』岡田恒男〔ほか〕朝倉書店 2000

『いのちを守る地震防災学』林春男 岩波書店 2003

『大震災100の教訓』塩崎賢明〔ほか〕クリエイツかもがわ 2002

『阪神・淡路大震災関連文献目録 1995-2000』日外アソシエーツ株式会社 2000

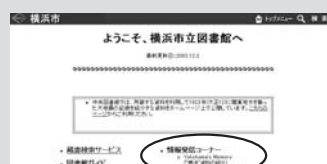
『「地域防災力」強化宣言』鍵屋一 ぎょうせい 2003

## 横浜市立図書館ホームページ

### 情報発信コーナー〈関東大震災を調べる〉

(<http://www.city.yokohama.jp/me/kyoiku/library/index.html>)

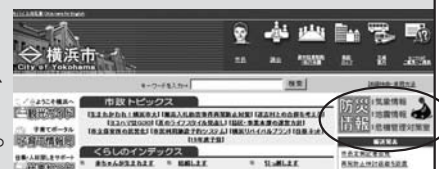
横浜市中央図書館で所蔵している関東大震災についての資料を画像とともに紹介。



## 横浜市ホームページ

(<http://www.city.yokohama.jp/front/welcome.html>)

横浜市の防災対策、市内避難所一覧、防災ハンドブック、住まいの備え、地震を理解する(地震マップ、液状化マップほか)等を掲載。



# 横浜市内地域図書館の ご紹介③

横浜市の図書館は、中央図書館と市内各区の17地域図書館から成り立っています。この市内18の図書館は、連絡車で結ばれていて、お近くの地域図書館に目的の本がなくても、市内いずれかの図書館に所蔵していれば、取り寄せてお貸しすることができます。

各地域館でも各館ごとに、特色あふれる資料を所蔵していますので、随時各館のご紹介をします。今回は、南図書館です。

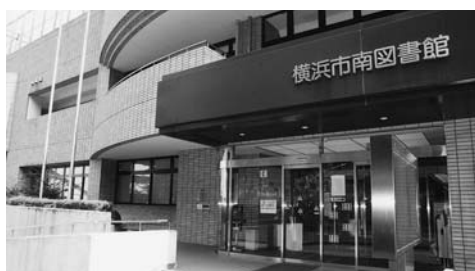
## 南図書館

京浜急行弘明寺駅改札を出て左手の階段から降り、横須賀方面に歩いておよそ1分、駐輪場を抜けるとすぐ南図書館です。

市営地下鉄弘明寺駅からは、にぎやかな弘明寺商店街を歩いておよそ8分で図書館です。

弘明寺公園の緑を背に、夏には屋上が「公園プール」になる図書館として親しまれています。開館して11年、1階児童書フロアの充実など、様々な資料を収集しています。今回はその中から、1階カウンター前に新設した「外国語資料コーナー」を中心にご紹介します。

南図書館入口



南区は、外国人登録人口が中国2,306人、フィリピン856人（平成15年11月末現在）等と市内有数です。外国人の方々に母国語での情報を提供するため、今年は中国語とタガログ語の資料を中心に購入し、従来からの英語等の資料を加え、「外国語資料コーナー」を設置しました。存在がさざなみのように広がって、見に来る方が増えています。



中国語は小説が中心ですが、マッサージ・料理の本などの実用書もあり、日本語学習の本などと共に「外国語」のラベルを貼り並べてあります。近くにある横浜国立大学留学生会館の学生だけでなく、三世代の家族連れで、また友人と一緒に来館し、利用される姿が見受けられます。タガログ語は絵本が中心です。また、2階の雑誌コーナーには、留学生新聞、KAIBIGAN、PHILIPPINES TODAYを備えています。

南福祉保健センター主催の「外国人ママの会」に、中国・フィリピン出身の保護者の参加が多い実状にあわせ、今後図書館のPRをすすめ、ご利用いただきたいと思います。資料の表紙のコピーを備え、読書案内にもお答えしています。より深い読書、利用ができるように拡充していくつもりです。

そのほか、2階では今年区制60周年を迎える南区についての資料を収集している「郷土資料コーナー」をはじめ、新聞、雑誌、いろいろなジャンルの図書が、ご利用いただけます。また、視覚に障害のある方は、「対面朗読サービス」を交通至便な当館でご利用をください。



外国語資料コーナー

各図書館にある検索機、または横浜国立図書館ホームページ (<http://www.city.yokohama.jp/me/kyoiku/library/index.html>) で、横浜国立図書館の蔵書、約330万冊（平成14年度末現在）を調べることができます。また、横浜市内の図書館で所蔵していない、あるいは調べることでできない本の場合は、県立図書館、他都市の図書館、類縁機関、最終的には国立国会図書館に依頼することができます。地域図書館はこれらの窓口にもなりますので、ぜひご利用ください。

## 参考図書のあれこれ (第10回) : CD-ROMで調べる

参考図書とは、事典や辞典のように、さまざまな情報を一定の順序（五十音順など）でまとめ、探しやすいように索引などがついている、いわば〈調べるための本〉です。今回は参考図書のCD-ROM版についてご紹介します。

なお、参考図書は、多くの方にご利用いただくために、図書館では基本的に館内閲覧のみです。また、一部の図書館だけが所蔵している図書もあります。詳しくは、各図書館へお問い合わせください。

コンパクトで大容量という性質を生かして、近年、参考図書がCD-ROMやDVD-ROMになるケースが増えています。全何十巻といった百科事典が1枚のDVDに図や写真入りで収まっていたり、紙の資料では不可能な動画や音声が入っている場合もあります。

知りたい事柄の検索が簡単なのもCD-ROMの特色です。たとえば、キーワード検索で「横浜」と入力して検索すれば、「横浜」という言葉を含む記事がすべて表示されます。また、キーワード検索以外にも、雑誌記事索引では論題名や著者名からの検索、判例集では裁判所や裁判日付からの検索などの機能があり、いろいろな角度から検索ができるようになっています。そして「AND検索」や「OR検索」ができるのも大きな利点です。たとえば、雑誌記事索引で雑誌名と著者名をAND検索すれば、〇〇という雑誌に〇〇という著者が書いた記事の一覧が検索できます。

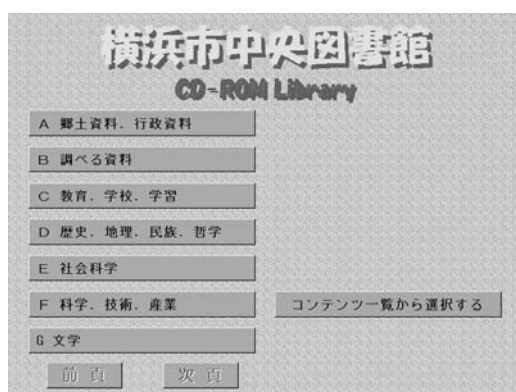
図書館で利用する場合、著作権法の関係上、ダウンロードが行えないなどの不都合がありますが、使い方によっては通常の図書資料よりも便利です。

### 雑誌記事を調べる

雑誌記事索引とは、雑誌などの論文や記事のひとつひとつを探すための参考資料です。『国立国会図書館雑誌記事索引』は、国立国会図書館所蔵の主要な学術雑誌・研究紀要約9,100誌を対象に、あるテーマについてどんな雑誌記事が何という雑誌の何巻何号の何ページに収録されているかを、調べることができます。以前は冊子体でしたが、現在ではCD-ROMやDVD-ROMになっており、

### 中央図書館のCD-ROMサービス

中央図書館では現在、9台のパソコンでCD-ROM (DVD-ROM) 閲覧サービスを行っています。9台の端末のうち6台は、ネットワークシステムに搭載されたCD-ROM資料を画面メニューで選択して、自動的に閲覧することができます。これにより、すべてのCD-ROM資料をどのパソコンからでも利用できます(ただし同時には使えません)。利用したいデータベースはディスプレイに表示されたメニュー画面から選択できるようになっていますので、CD-ROM資料をそのつど借り出して装着するという手間がかりません。他の3台は、このシステムに搭載できない方式のCD-ROM (DVD-ROM) を利用できるようになっています。こちらもほとんどのデータベースはCD-ROMの入れ替え無しで利用できます。現在、約200タイトルのCD-ROM (DVD-ROM) があります。



インターネットでも公開されています。DVD-ROMの累積版が出てからは、1948年から2003年9月まで55年間分、600万件以上の記事を一度で検索できるようになりました。これなどは冊子体では絶対にできない機能です。もちろん、区間を細かく区切って検索することもできます。論題名や著者名、あるいはキーワードから自分の探している雑誌記事が見つかったら、今度はその記事が掲載されている雑誌を見つけることになります。雑誌記事索引では、記事そのものは見ることはできないからです。注意していただきたいのは、雑誌記事索引に収録されている雑誌のうち、中央図書館で所蔵しているのは、その一部だということです。所蔵していない雑誌については他の機関を探さなければなりません。

『国立国会図書館雑誌記事索引』が学術雑誌、研究紀要などが中心なのに対し『大宅壮一文庫雑誌記事索引』は、評論家大宅壮一の旧蔵書から出発した図書館「大宅壮一文庫」が所蔵する雑誌の記事索引で、週刊誌、総合誌、女性誌など、一般雑誌に重点がおかれているところが特徴です。一般的な大衆娯楽誌・風俗誌の記事を探すのに大変便利な資料です。人名・件名を問わず、思いついた言葉で引ける〔フリーワード検索〕では、ANDやORの論理検索も可能です。その他に〔執筆者・発言者検索〕〔発行日検索〕〔雑誌名検索〕〔雑誌ジャンル検索〕〔件名項目検索〕〔キーワード検索〕〔人名項目検索〕〔職業ジャンル検索〕〔記事種類検索〕の9つの条件項目があり、掛け合わせて多彩な検索ができます。

## ● 新聞記事を調べる

新聞は情報の宝庫です。政治、経済、国際といった大きな出来事が報道されていることはいうまでもありません。新聞記事を調べるときには、雑誌記事を調べる場合と似ています。「〇〇という新聞の〇月〇日朝刊に掲載されている」という情報をまず入手します。このような場合、各種新聞記事データベースCD-ROMを利用すると効率的です。ただ今のところ、複数の新聞を横断検索できるCD-ROMはありません。新聞記事データベースCD-ROMには、イメージ版と文字情報版の2種類があります。イメージ版は、新聞のオリジナル紙面そのままで見ることができます。文字情報版には、記事全文が読め

るものと見出ししか読めないものがあります。

イメージ版には、『朝日新聞戦前紙面データベース 昭和元年～9年』、『朝日新聞戦前紙面データベース 昭和10年～20年』、『明治の讀賣新聞』、『大正の讀賣新聞』、『昭和の讀賣新聞戦前編Ⅰ』、『昭和の讀賣新聞戦前編Ⅱ』、『讀賣新聞縮刷版1994.1～2003.11』があります。また、『日刊工業新聞縮刷版』は、平成15年4月からはCD-ROM版のみとなり、冊子版の発行は終了しました。イメージ版では、記事全文はもちろん、図や写真、広告なども新聞そのものの形で見るができます。

讀賣新聞は、明治7（1874）年11月2日創刊号から昭和20（1945）年12月までの記事を検索し、紙面をそのまま見ることが可能です。全国紙で、明治初期から現在まで切れ目無く、同じ名で発行されているのは讀賣新聞だけです。明治7年からの紙面が納められていますので、たとえば西南戦争、日本初の憲法発布、日清・日露戦争、太平洋戦争といった大事件がどう報道されたかを、検索して見るができます。明治・大正・昭和（戦前）の新聞では、旧漢字や変体仮名、また現代の表現とは異なった言葉が用いられている場合が数多くあります。さらに記事の中には、見出しのない場合もありますが、適切な見出しやキーワードを付与してあります。検索機能がすぐれていますので大変使いやすくなっています。

CD-ROM版の『讀賣新聞縮刷版1994.1～2003.11』は、冊子体の縮刷版に比べて発行までの期間が非常に短いのので、月末には前月分が利用できるようになっています。リアルタイムとまではいきませんが、ごく最近の記事まで検索することが可能です。昭和21（1946）年1月から平成5（1993）年12月までの期間はまだ空白ですが、近い将来完成するでしょう。そうすれば明治から現在までの一大新聞データベースになります。

文字情報版の新聞CD-ROMには、次のようなものがあります。

『CD-HIASK朝日新聞1996～2002』

『CD毎日新聞1996～2002』

『日本経済新聞1997～2002』

『日経産業・金融・流通1997～2002』

これらは、それぞれの新聞の記事を全文収録したCD-ROMです。1996年以降の1年分の記事が1枚のCD-ROMに納められ、日付や記事中の語句から記事の特

定することが可能です。ただし、図や写真は見られませんが、一部の寄稿原稿等は著作権の関係で除かれています。

『戦後50年朝日新聞見出しデータベースASAX1945～1995』

戦後50年分の朝日新聞の見出しを5枚のCD-ROMに収録してあります。一度に10年分ぐらいを検索すること

ができますが、見出し記事のみで記事本文は閲覧できません。あくまでも探している記事が何年何月何日の朝刊・夕刊に出ているかを調べるものなので、本文を見るには冊子体の新聞縮刷版を見る必要があります。

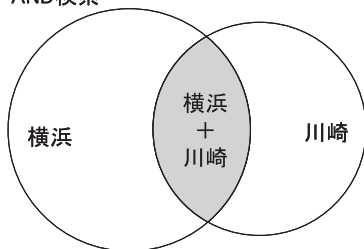
CD-ROMで検索をするとき、複数のキーワードとAND、OR、NOTを組み合わせて検索式を作ることによって、目的の記事を絞り込むことができます。

『読売新聞縮刷版2003年9月』を使って、「横浜」と「川崎」というキーワードでAND検索、OR検索、NOT検索を試みます。ちなみに「横浜」だけで検索すると185件、「川崎」だけが77件です。

#### ① AND検索

検索式 「横浜」 AND 「川崎」

AND検索

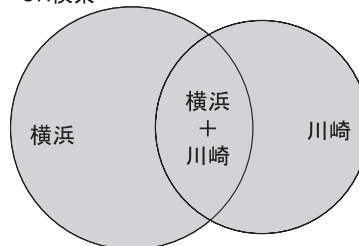


記事の中で、「横浜」という言葉と「川崎」という言葉を両方含んだもので、17件ヒットします。

#### ② OR検索

検索式 「横浜」 OR 「川崎」

OR検索

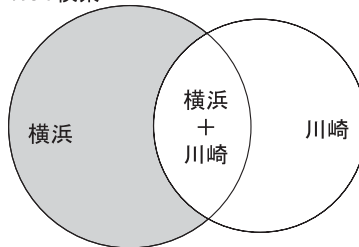


記事の中で、「横浜」あるいは「川崎」という言葉を含んだもので、245件ヒットします。

#### ③ NOT検索

検索式 「横浜」 NOT 「川崎」

NOT検索



「横浜」という言葉を含んでいる記事の中で、「川崎」という言葉を含まないものは、168件ヒットします。

## 判例を調べる

判例を調べるには、従来から『最高裁判所民事判例集・刑事判例集』、『高等裁判所民事判例集・刑事判例集』、『下級裁判所民事判例集・刑事判例集』、『行政事件裁判例集』、加除式の『新判例大系』のような資料が発行されてきました。また、『判例タイムズ』、『判例時報』、『ジュリスト』などの逐次刊行物もあります。しかし、これら冊子体のものよりCD-ROM版の方がはるかに検索は簡単です。

CD-ROM『判例マスター』は、戦後日本の判例を検索できるデータベースです。提供される年代は1947年から現在までです。CD-ROMの欠点は最新情報に弱いことで

すが、最新版は年2回更新されています。裁判所法施行（1947年）以降に公刊された日本国内における判例の詳細な書誌情報、および判示事項のデータを検索できます。重要判例については主文及び判決理由の全文を収録しています。キーワードのAND・OR・NOT条件の設定が一目で分かるマトリックス型検索画面で、簡単に検索条件を指定することができます。

『判例タイムズDVD』、『ジュリストDVD』、『旬刊金融法務事情DVD』、『労働判例DVD』は、判例検索と記事検索ができます。DVD-ROMの大容量という特色を生かして、創刊号から『判例タイムズ』は1,072号、『ジュリスト』は1,200号、『旬刊金融法務事情』は1,646号、『労

働判例』は800号までの全ページ（広告を除く）をイメージデータとして収めていますので、紙面そのままの形で閲覧できます。検索項目は、「判例」については法令条文、裁判所、事件番号、裁判日付での検索が、「記事」については号・ページ、タイトル、著者に加えて、全文フルテキストからの任意語での検索が可能です。雑誌記事索引では、記事本文を見ることはできませんが、この4つのソフトでは記事検索した結果の全文を見ることが可能です。中央図書館では、逐次刊行物の『判例タイムズ』、『ジュリスト』、『旬刊金融法務事情』、『労働判例』を所蔵していますが、創刊号からはありませんのでその点でも大変役に立ちます。

## ● 企業情報を調べる

企業情報を調べるCD-ROMに、『TSR企業情報ファイルCD-Eyes 50』があります。TSR（東京商工リサーチ）が収集した企業情報から、優良、有力企業50万社をピックアップし、その最新企業情報が収録されています。検索ソフトは、他のCD-ROMでもよく使われている「CD Answer」で、商号・代表者・所在地・資本金・売上高など32項目の検索キーを組み合わせ、希望の企業を選び出すことが可能です。

たとえば、「神奈川県内にある、食料品製造業で、売上高100億円以上の企業」という条件で検索すると、22社の一覧

が表示されます。この一覧から特定の企業を選べると、その企業の所在地・資本金・大株主・取引銀行・業績・申告所得・概況・調査年月日などが表示されます。このようにいくつかの条件を掛け合わせて検索して、瞬時に結果が出てくるとするのは、図書資料では、絶対にできない機能です。

## ● 和歌を調べる

現在、和歌を研究する際に欠かすことのできないデータベースに、『新編国歌大観』CD-ROMがあります。全10巻の『新編国歌大観』のCD-ROM版で、『万葉集』から幕末期にいたる1,162の歌集等（約45万首）の歌集本文と解題を収録しています。主要な古典和歌は網羅されているといつてよいでしょう。句、語い、歌集・歌番号、勅撰集作者など、さまざまな検索を行なうことができます。たとえば、句検索で「よしの」を入力し参照ボタンをクリックすると、「よしの」を句頭に含む句がウインドウ内に表示されます。その中から「よしのやま」を選択し検索ボタンをクリックすると、「よしのやま」の句を含む和歌が1,133首表示されます。本文を閲覧したい和歌にカーソルを移動し、本文ボタンをクリックすると、該当の和歌を含む歌集の本文が表示されます。さらに、該当の歌集の解題ボタンをクリックすると、解題本文が表示されます。

(K.M.)

※このデータは平成16年1月7日現在のものです。



中央図書館 3階 CD-ROMデータベース検索コーナー

◇今回ご紹介したのは図書館資料のほんの一部です。調べ物でわからないことがある場合は、お気軽にお尋ねください。